

平成19年度  
発生予察情報

## 特殊報第6号

平成20年3月25日  
埼玉県病害虫防除所  
(TEL:048-525-0747)

### クロトンアザミウマによるモントレイトスギ‘ゴールドクレスト・ウィルマ’の被害の発生について

クロトンアザミウマの寄生によるモントレイトスギ‘ゴールドクレスト・ウィルマ’の被害が県内で初めて確認されました。

吸汁害により葉にかすり状の白斑を生じ、加害が進むと葉が硬くなります。

特殊報：新奇な有害動植物を発見した場合及び重要な有害動植物の発消長に特異的な現象が認められた場合に発表するものです。

1 病害虫名 クロトンアザミウマ *Heliothrips haemorrhoidalis* (Bouché)

2 発生経過

(1) 平成19年10月下旬、県東部地域で栽培されているモントレイトスギ‘ゴールドクレスト・ウィルマ’において、吸汁害による葉の退色や硬くなる障害が発生した。

(2) 寄生していたアザミウマ類の成虫を採集し、農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、クロトンアザミウマであることが判明した。

本種は、野外や施設栽培の花や果実などでときどき局所的に発生しており、本県では、施設内のモントレイトスギ‘ゴールドクレスト・ウィルマ’の被害が初めて確認された。

3 形態及び発生生態

(1) 形態

成虫(雌)の体長は1.5~1.8mm。体色は全体に暗褐色、脚は黄白色、前翅は淡色、翅の後縁毛はまっすぐに伸びる。体表は、全体に明瞭な網目状の刻紋に覆われる。頭部は前方に突出し、基部でくびれる。触角先端は針状に、細長く尖っており、第1~2節、6節は褐色で3~5節で淡色。幼虫は黄白色である。

(2) 生態

一般的には温室内生息種とされており、寒地では野外では越冬できないようであるが、関東以南では野外にも生息し、卵態越冬する。日本では雌のみで単為生殖している。成虫は1個ずつ卵を葉の組織内に産み込み、外部に露出した卵の先端を、排泄物で塗り込めて保護する習性を持つ。成虫・幼虫ともに直射日光を嫌い、葉裏で生活する。

### (3) 被害

本虫の被害は、吸汁により葉の表面にかすり状の白斑を生じ、排泄物により茎葉に汚れが発生する。加害が進行すると葉が乾燥し硬くなる。

本虫の寄生は、ラン類、バラ、サンゴジュ、カキ、キウイ、クロトンなど多数の種子植物のほかシダ植物にも寄生する。

### 4 防除対策

(1) 施設栽培では、施設開口部に防虫網などを張り侵入を防止する。

(2) 薬剤による防除として、アセフェート水和剤1,000倍(発生初期、5回以内、樹木類のアザミウマ類で登録)を発生時期に散布する。



葉の被害状況



葉の食害



クロトンアザミウマの成虫



クロトンアザミウマの蛹

#### < 農薬使用上の注意事項 >

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍率は使用の都度確認する。
- 3 農薬の選定に当たっては、系統の異なる薬剤を交互に散布する。
- 4 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 5 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正な方法で散布する。
- 6 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。